

ORGANO CSR REPORT 2017

オルガノグループ
CSR REPORT 2017



Ecologically Clean

オルガノは Ecologically Clean を企業コンセプトとして、「人と人とのふれあい」と「人と環境との調和」を大切にしています。

水は、地球という惑星に与えられた、命あるものすべてに共通の財産です。

オルガノは創業より水とともにあり、

水を理解する心と、

水を活かす技術を

大切に育み続けています。

生命の源、「水」がもたらす恩恵を、

社会の基盤づくりから先端産業、

そして毎日の暮らしの中へ。

私たちは、水処理の総合エンジニアリング企業として、

美しい地球環境との共存と共生に

貢献していきます。

CONTENTS

オルガノグループの紹介

トップメッセージ	2
企業コンセプト・企業理念・経営理念	3
暮らしの中のオルガノ	4
中期経営計画／CSRへの取り組み	6
事業内容	7

コーポレート・ガバナンス

コーポレート・ガバナンス	8
コンプライアンス	10
リスクマネジメント	10
労働安全衛生	11
BCP(事業継続計画)	11

ステークホルダーとのつながり

ステークホルダーとのつながり	12
株主・投資家とのつながり	12
お客様とのつながり	13
お客様ニーズに合わせた製品・サービス	13
取引先・購入先とのかかわり	14
社会とのつながり	14
社員とのつながり	15

環境への取り組み

環境基本方針／環境マネジメント体制／環境教育	17
エネルギー・廃棄物	18
製品を通じた環境保全活動	20

グループ概要

事業所紹介	23
会社概要	24
編集方針・報告範囲	25



代表取締役社長
鯉江 泰行

「水」で培ってきた確かな技術で 持続可能な社会に貢献します

水は私たちの日々の生活はもとより、地球上のすべての生命になくてはならないものです。今、地球環境は温暖化が進んでいます。これが気候変動につながれば、台風・ハリケーンによる大水害や砂漠化による食物の枯渇や飲み水の不足にもつながります。また、不用意な産業排水の放出は、河川や海洋、地下水の汚染をもたらす、生態系にダメージを与え、私たちの安全な生活をも脅かします。

私たちには、経済的な発展と環境を両立させ次世代に豊かな地球を残す持続可能な社会を実現させることが求められています。とりわけ、企業は、水を始めとする環境への負荷をできる限り軽減し、保有している技術を活用して毀損した環境を回復して行かなければなりません。また、きれいな水を保持するだけでなく、エネルギー問題、資源問題にも真摯に取り組み、豊かで安心できる社会を構築して行かなければなりません。

オルガノグループは、「Ecologically Clean」という企業コンセプトのもとに、環境をキーワードとして事業を展開しています。そして「地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであり、企業活動のあらゆる面で、美しい地球環境との共存と共生に貢献していく」という環境理念を掲げ、持続可能な社会の実現に貢献すべく、会社を運営してまいりました。

従来からオルガノグループは、産業と生活が必要とするきれいな水に処理すること、排水を浄化して環境に戻すことを主力事業としてまいりました。半導体産業が求める極めて純度の高い超純水を作る装置、各種産業が必要とする用水を供給する装置、生活や工場から出されるさまざまな排水をきれいに処理する装置、これらの技術は長い経験と開発の研鑽から、世界のトップレベルに到達しています。

しかし、オルガノグループは、現代社会が期待するより多面的で多様な要請に的確に応えているか問い直す必要があります。確かに世界の産業の求めに応じて必要とされる水を提供してきました。安心して飲める水も用意してきました。今、私たちの社会が挑戦しなければならない、より先進的な問題、例えば、エネルギー問題、資源問題、高度に発達するIT問題、高齢化社会問題などに、オルガノグループは今まで以上に貢献すべきと考えています。

オルガノグループが水の処理を通して培ってきた技術と経験は、水の中に含まれる夾雑物をいかに効率良く除去するかに集中しています。これを応用すれば、排水をきれいにして再利用できるようにし、水不足に苦しむ人々を救うことができます。水の中に含まれる希少金属を回収すれば、資源問題への一助となります。例えば、需要成長が著しい電気自動車には希少な高価なコバルトが使われます。水をきれいにする技術をさらに展開させれば効率よく希少金属を回収する技術にも発展するでしょう。水から温度の低い熱を回収して利用できるようにすれば、エネルギー問題にも寄与できるでしょう。極めて集積度の高い半導体に使用される電子材料を極限まで精製することができれば、電子産業と高度IT社会に貢献することになります。高齢者に望まれる安全な食品加工品の開発やバイオ医薬の精製技術の開発は、現在の先進国社会が抱える課題への助けとなるでしょう。

このCSRレポートは、オルガノグループが今の活動を見つめ、期待されている役割を見つけ出して実行して行くことを目的としています。このレポートを通じて、多くの方々が、オルガノグループに対して、新しい期待とチャレンジをお寄せ下さることを願っております。

オルガノグループ企業コンセプト

Ecologically Clean

オルガノグループ企業理念

オルガノグループはかけがえのない地球の未来を見つめ
“心”と“技”で水の価値を創造する。

オルガノグループ経営理念

地球を大切にする経営

お客様を大切にする経営

人を大切にする経営

技術を大切にする経営

株主を大切にする経営

暮らしを支えるオルガノの水処理技術

オルガノは水を活かす技術と環境に配慮したシステムで日々の生活と産業の発展をサポートしています。

半導体・電子部品工場

精密部品の製造に必要な純水や超純水の供給、使用後の水をリサイクルする技術などを提供しています。

学校・研究所

飲用水やプール水の衛生管理、実験・研究用水など様々な水処理技術を提供しています。

住宅地

カップ飲料自販機や厨房用設備に浄水フィルターが採用されています。

病院

臨床検査や器具洗浄などに必要不可欠な純水・超純水を提供し、医療現場を支えています。

発電所

発電設備内の水質維持、各種排水処理などエネルギーの安定供給に貢献しています。

浄水場

濁りや匂いなどを除去し、安全でおいしい水道水をつくっています。

食品工場

食品・飲料の原料水、容器洗浄水のほか食品添加剤も供給しています。

化学プラント

各種製品の製造過程で不可欠な純水・超純水製造技術、環境に配慮した排水処理技術を提供しています。

ビル、ホテル

飲用水から空調・ボイラー用水、排水処理まで様々な場所で役立っています。

コンビニ、飲食店

水道直結の浄水フィルターでより安心な水をつくっています。

下水処理場

工場や家庭から出る排水を浄化し、自然にもどすお手伝いをしています。

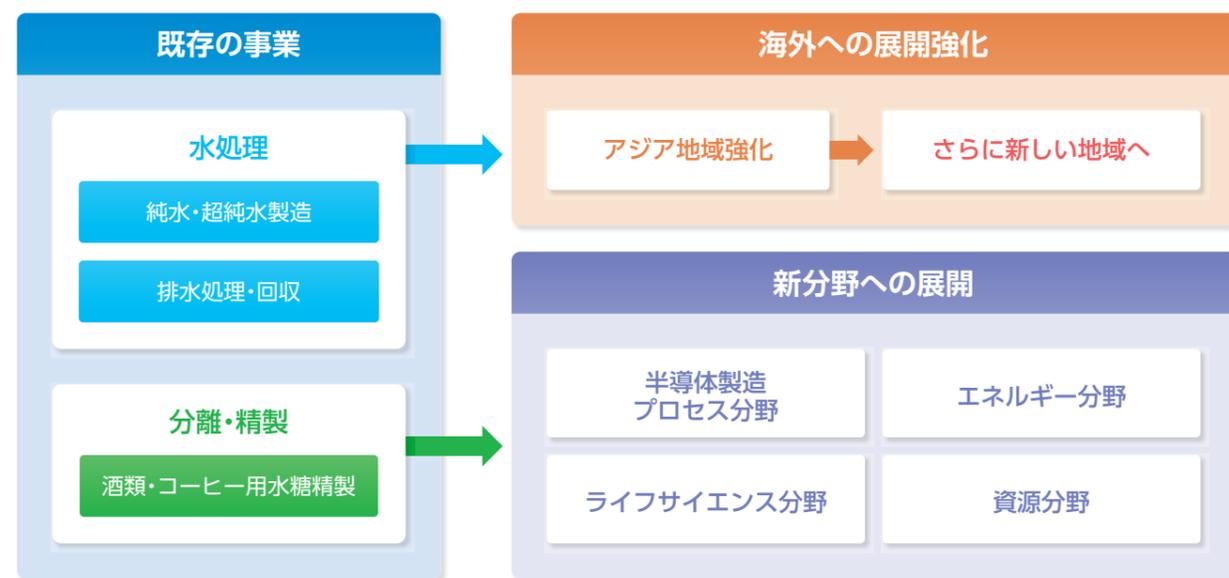
中期経営計画

当社グループは、常に3年先を見通した事業運営を継続するため、終了年度を固定せず毎年ローリングする中期経営計画に取り組んでいます。新たな中期経営計画では、これまで進めてきた経営ビジョンに中長期的な成長の礎を築くことを目的として、新しい事業創出を目指すビジョンを加え、以下の2つを経営ビジョンとしています。

◆ オルガノグループの経営ビジョン

- 主要アジア経済圏において、産業が求める品質の水を、最も合理的なコストで、最もタイムリーに提供できる、収益力あるエンジニアリング会社。
- 非水溶媒、ガス体の分離、精製、回収に関わる独自性ある技術と事業を常に創出・展開する会社。

◆ オルガノグループが目指す姿<オルガノの役割>



CSRへの取り組み

当社グループは、「Ecologically Clean」のコンセプトのもと、産業と人と自然の調和に貢献する企業として将来にわたり発展を続けていくため、また、持続可能な社会の実現に向けて企業の社会的責任を果たしていくため、オルガノグループ役員と従業員が遵守すべき「オルガノグループ企業行動指針」を定め、グループ全体でCSRへの取り組みを推進しています。

◆ オルガノ企業行動指針の骨子

- I. 顧客、取引先および株主の信頼と期待に応える
- II. 一人一人がその能力を発揮できる快適な職場をつくる
- III. 社会の健全な発展に貢献する

なお、オルガノ企業行動指針は、当社ホームページで公表しています。

<http://www.organo.co.jp/company/concept.html>

事業内容

オルガノの事業には、水処理装置の販売を行う「プラント事業」、納入した装置のメンテナンスや運転管理を行う「ソリューション事業」、カタログ商品である標準製品や薬品の販売を行う「機能商品事業」があります。

プラント事業

電子産業分野

半導体や液晶、各種電子部品・材料の洗浄には超純水が用いられており、当社では超純水製造装置を日本のトップメーカーをはじめ海外メーカーへも納入しています。工場の大規模化に合わせ、1時間あたり2,000m³という大流量への要求にも応えると共に、環境へ配慮した排水を出さないクロージド化にも取り組んでいます。



身近な製品にも使われる純水・超純水

スマートフォンやタブレットを構成する電子部品にも製造過程で純水や超純水が使われています。



一般産業分野

化学、石油精製、食品工業、紙・パルプや繊維・染色、自動車、メッキ工業など、様々な産業に対して目的に応じたプロセス用水を最も効率的に処理するシステムを提供しています。



電力分野

高い信頼性を求められる火力・原子力国内発電所向け水処理プラント。この分野で高いシェアを有し、その技術力を認められています。東南アジア地域の発電所向けに水処理装置を納入するなど国内のみならず海外市場にも取り組んでいます。



上下水道分野

私たちの生活に欠かせないライフラインである上水道・下水道。その処理を担う浄水場では、沈でろ過、膜ろ過、活性炭やオゾンによる高度処理など、下水処理場では生物処理などオルガノの得意な技術が活用されています。



医療薬品分野

安全性が特に重要視される医薬品製造プロセス。ここでもオルガノの高度な技術が活かされています。注射用水をつくる蒸留水製造設備や製薬設備を細菌から守る純粋蒸気発生器など、高純度でパイロジェン（発熱性物質）を含まない、高い安全性を有する水をつくるシステムを提供します。



ソリューション事業

メンテナンス

長年培ったノウハウをもとに、水処理装置に関する修理や部品交換、定期点検、保守点検などのメンテナンスを行います。

提案型サービス

既設水処理装置の設備診断とあわせて改善・改良提案を行います。また、薬品使用量や廃棄物を削減するなど環境負荷低減に貢献する提案を行います。

水処理アウトソーシング受託事業

包括メンテナンス お客様の工場にある水処理装置の点検と消耗品交換などのメンテナンスをオルガノが一括受託することにより、安心して装置をお使いいただけます。

運転管理 ノウハウを有した運転担当者を派遣し、状況に応じた適切な運転管理を行うことにより、お客様の業務負担を軽減し安定かつ効率的な運転を実現します。

処理水供給 お客様の工場内にオルガノが水処理装置を設置し、使用量に応じた処理水を供給します。お客様のニーズも高まっており、大規模な水処理加工業務を受託しています。

遠隔監視 オルガノ本社内にある監視センターで、水処理装置の運転状況を遠隔監視し、警報通知を受け、早急な現場対応をバックアップします。装置の運転データから傾向変化を読み取り、予測監視により水処理プラントのトラブルを削減します。

機能商品事業

標準製品 小型水処理装置は豊富なラインナップを有し、電子部品製造工場、食品工場、病院、研究所、レジャー施設まで広く用いられています。短納期・低コスト化したカタログモデルは多くのお客様に利用いただいています。

水処理薬品 冷却水処理剤・ボイラ処理剤・排水処理剤など水処理用の多様な薬品をラインナップ。装置と組み合わせたトータルシステムを提案し、安定運転を実現します。

食品加工剤 健康志向の高まりを受け、より食品の付加価値が求められています。当社ではお客様の商品価値を高める品質改良剤、食品素材を食品メーカーへ提供しています。

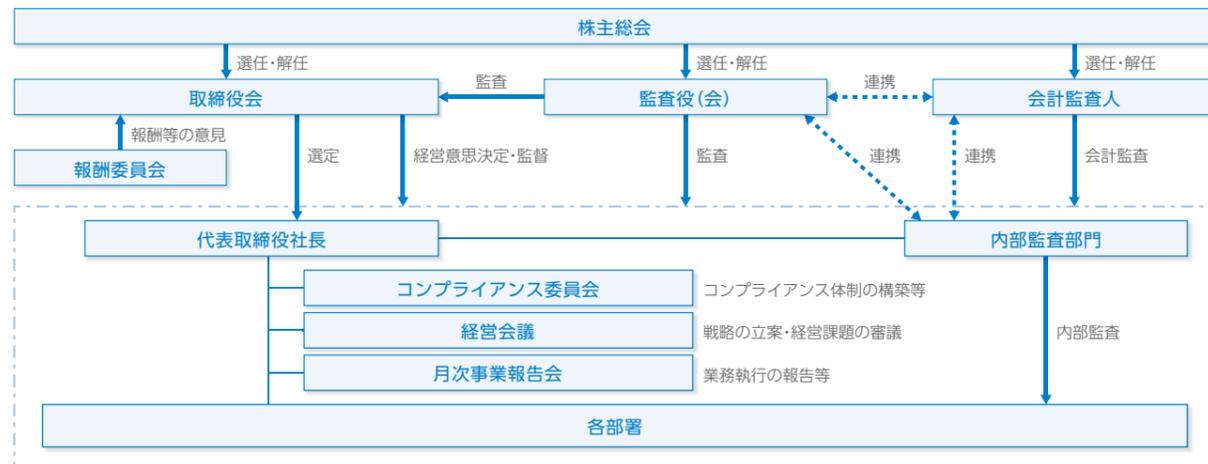
コーポレート・ガバナンス

適正な事業活動を持続的に営み、ステークホルダーに対する責務を果たして信任を得るため実効的なコーポレート・ガバナンスを確立・維持しています。

取締役会

取締役会は、戦略的な意思決定と執行役員による業務執行の監督を行っています。定例取締役会を毎月1回開催するほか、必要に応じて随時開催し、経営計画、資金計画、投資、M&Aなど重要経営課題について審議、決定しています。また、意思決定に第三者視点を加え、経営の効率性・透明性・客観性を確保するため社外取締役2名を招聘しています。

◆ コーポレート・ガバナンス体制図



監査体制

オルガノは監査役会を設置し、取締役会とともに経営に対する監督機能の向上を図りながら経営の公正性および透明性の確保を推進しています。

経営会議

特定の重要課題について意思決定や審議を行う経営会議を設け、中期経営計画や投融资など経営上重要な課題について、取締役会の前置機関として役割を担っています。

オルガノ コーポレートガバナンス・ガイドライン

企業コンセプト、企業理念、経営理念のもと、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に資することを目的として、コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方及び指針を定めています。

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、公正かつ信頼性の高い経営の実現と経営効率の向上を目指し、以下の基本的な考え方に沿って、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでいます。

- (1) 株主の権利を尊重し、平等性を確保する。
- (2) 株主・投資家、消費者・顧客、取引先、従業員、地域社会など、幅広いステークホルダーの利益を考慮し、それらステークホルダーと適切に協働する。
- (3) 会社情報を適時・適切に開示し、透明性を確保する。
- (4) 取締役、監査役及び執行役員は、受託者責任を認識し、求められる役割・責務を実効的に果たす。
- (5) 株主との間で建設的な対話を行う。

なお、当社のコーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方と基本方針を「オルガノ コーポレートガバナンス・ガイドライン」として定め、当社ホームページにて公表しています。

<http://www.organo.co.jp/company/governance.html>

人事制度

目標管理制度、育成面接・評価制度、資格取得支援制度等を整備し、個人の努力や成果を客観的に評価することにより、社員一人ひとりが働きがいを感じることができる職場づくりを目指しています。

ダイバーシティへの取り組み

様々な個性やバックグラウンドをもつ多様な従業員一人ひとりが、能力を発揮し、成長を実感できる環境構築を目指しています。

- ・ 障がい者雇用**
 現在の障がい者雇用率2.27%(2017年3月現在)をさらに高めるべく継続的な雇用拡大に努めています。
- ・ グローバル人材活用**
 海外展開の拡大に合わせ、異なる価値観や異文化の経験を活かすためグローバル人材の雇用、育成を推進しています。
- ・ シニア人材の活用**
 60歳定年退職後もこれまで培ってきた技能や専門知識を活かして意欲的に働けるよう、65歳までの再雇用を可能とする再雇用制度を導入しています。
- ・ 育児支援 育児短時間勤務**
 ライフステージに合わせて女性だけでなく男性も利用可能な育児短時間勤務制度を導入し、また小学校3年生まで対象となる育児短時間勤務制度も導入しています。
- ・ 年次有給休暇取得の奨励**
 ワーク・ライフ・バランスを実現するため、夏季休暇や勤続15年と25年のリフレッシュ休暇(特別休暇)とあわせて有給休暇取得の推進を奨励しています。
- ・ 働きかた改革(柔軟な勤務制度)**
 柔軟で効率的な働きかたができるようフレックスタイム制度や半日休暇制度を導入、また順次WEB会議システムを普及させる等、業務効率化を推進しています。

◆ 「えるぼし 三ツ星獲得」

当社は、女性活躍推進への取り組みが認められ、厚生労働大臣から優良企業の認定を受けました。

女性活躍推進法に関する認定マーク「えるぼし」は、女性が個性と能力を十分に発揮できる社会実現を目指す法律に関連した認定制度で、①採用時の競争倍率、②勤続年数、③労働時間、④管理職比率、⑤多様なキャリアコース実績の5項目から評価されます。

当社はこれらの項目を全て満たし最高位の認定を受けました。

これまでに当社は育児とキャリアを両立するため、法定を上回る支援制度導入やキャリアアップに応えるコース転換制度等を導入してまいりましたが、今後さらにワーク・ライフ・バランスに配慮し、女性が職場で能力を発揮し活躍できる環境づくりを推進いたします。



働きやすい職場環境づくり

・ 人権尊重の職場づくり

社員全員が人権に関する正しい知識を身に付け、人権が尊重される職場づくりを推進するため、全社員向けに企業倫理、コンプライアンス、ハラスメント防止等に関するeラーニング教育を実施しています。

・ 労働組合との関わり

オルガノ労働組合と労働協約を締結し円滑な労使関係を維持しています。定期的な経営トップ参加の労使協議会を通じて経営方針の浸透と組合員意見の経営戦略・方針への反映を図っています。

コンプライアンス

コンプライアンス確保の取り組み

行動指針

グループ社員及び役員が遵守すべき行動規範として、オルガノグループ企業行動指針を制定し、一人ひとりに携行可能な小冊子を配布するとともにホームページへ掲示し、指針の周知と実践を推進しています。

コンプライアンス確保体制

ステークホルダーの皆様と良好な関係を築けるよう、法令遵守はもとより、社会の良識、常識をふまえたコンプライアンス活動を行っています。社会に大きな影響を与える違法行為、その他小さな不正、ミスが企業で行われないように業務の適正を確保するために必要な基準・手続きである内部統制システムを策定し、3ヶ月に一回開催するコンプライアンス委員会で、コンプライアンス確保のための情報交換や不正防止策の検討を行っています。また、情報提供しやすい開かれた体制づくりと実効性確保のため、社内通報窓口のほか、第三者機関による外部通報窓口、監査役への通報窓口を開設しています。(2016年度の通報件数0件)

社員教育・啓発活動

全社員へのコンプライアンス教育、イントラ掲示板を用いた啓発および階層別研修を通じた教育を行いコンプライアンス違反につながりかねない行為の根絶を図っています。

リスクマネジメント

当社グループの持続的発展を脅かす様々な不確実性をリスクと捉え、その中でもコンプライアンス問題、環境問題、品質問題、情報セキュリティ問題などを主要なリスクと認識し、これらへの対策を講じています。会社の存続を危うくするようなリスクが高まり、危機が顕在化した際には、危機管理基本規程に基づき危機対策チームを編成し、被害を最小限に抑制するための適切な措置を講じます。

知的財産の尊重

特許、実用新案、商標、意匠などの知的財産の各権利はビジネス市場において独占性、排他性を法的に確保する上で重要なものです。これら知的財産は、研究開発、技術開発など日々の事業活動で生み出されており、2017年3月31日現在下記の件数を保有しています。

種目	権利数	合計
特許・実用新案	711件	1,043件
商標・意匠	332件	

購買基本方針に則った購買活動

当社はサプライチェーン全体でCSRを推進し、調達先とともに持続可能な社会の実現に向けて取り組むため2015年に「オルガノグループサプライチェーンCSR推進ガイドブック」を策定し、人権尊重、安全衛生の確保、法令順守、環境への配慮など7項目を定め、サプライチェーンへの浸透を図っています。

オルガノグループサプライチェーンCSR推進ガイドブック
<http://www.organo.co.jp/company/pdf/guidebook.pdf>

労働安全衛生

労働安全衛生は最も重要なテーマの一つです。グループ会社やビジネスパートナーが安心して働ける取り組みを継続的に推進しています。プラント設置工事や薬品取扱いにあたっては手順書の作成、チェックシートによる確認、建設現場や工場への定期的な安全パトロールを行っています。またイントラへの安全だより掲示、災害発生状況報告と改善策の周知、さらに取引先の表彰制度などを通じて安全最優先というメッセージを発信し、安全な職場づくりに努めています。

BCP(事業継続計画)

大地震等の災害発生時の事業への影響や、これに伴うお客様への影響を最小限に留めるため主要事業のBCP(事業継続計画)を策定し、つくば工場での演習実施を行うなど、事業の継続能力を高めるため各種対策に取り組んでいます。

当社の事業継続の基本方針は以下のとおりです。

【基本方針】

- **人命の安全確保を最優先**
人命が第一、役員・従業員とその家族の安全確認、安否確認を最優先する。
- **地域社会の安全確保**
当社拠点内と周辺地域の安全確保及び二次災害防止を優先し、地域との共存を図る。
- **事業の早期復旧**
当社の施設や事業所、また当社施工物件、施工中物件の被害状況を迅速に把握し、素早い復旧活動により、業務停止に伴うビジネス上の悪影響、風評リスクの極小化を図る。
特に、業務停止が人命を脅かすインフラ関連のビジネス、社会インフラを支えるビジネス、各事業部門で重要と考えるビジネスの継続に努める。
当社の事業継続に準じて考え行動することで、お客様の事業継続に貢献する。
- **BCP(Business Continuity Plan)の見直し**
災害等のリスクに強い企業になることを目指し、定期的に訓練・教育を行い、継続的に事業継続計画(BCP)を見直し、改善する。

安否確認システム

災害発生時における初動対応の中で、従業員及び家族の安否確認は最も重要な項目です。当社は一定以上の震度や災害情報などに応じて、安否確認メールを社員へ発信し、迅速に安否を確認するシステムを導入しています。

ステークホルダーとのつながり

オルガノグループは持続的成長をしていく上で関わりの深い5つのステークホルダーに対し、企業として社会的責任を果たしています。

ステークホルダー	オルガノの役割・使命	エンゲージメント
株主	適正な情報開示、安定的かつ適正な配当、企業価値の持続的向上	IR活動(決算説明会、IRミーティング)、株主総会、ホームページ
顧客	高品質で社会に役立つ製品およびサービスを適正価格で提供	営業活動を通じたコミュニケーション
取引先	公平・公正な取引	購買活動を通じたコミュニケーション
社員	安定的雇用、人材育成、適正な給与、情報と課題の共有	社員集会、労使協議会、各種研修、イントラネット、グループ報、健康相談室
地域・社会・行政	適正な納税、安定的かつ公正な雇用、地域社会との対話	ホームページ、環境報告書

株主・投資家とのつながり

IR活動を通じた双方向コミュニケーション

事業戦略や事業状況の理解促進および経営の透明性を高め市場からの信頼を得るため、適切で公正な開示を目指しています。株主、証券アナリスト等の市場参加者と双方向コミュニケーションを行うことにより、両者の認識ギャップを埋め、市場認識・評価を経営へフィードバックしています。

- 機関投資家、証券アナリスト向け決算説明会(本決算、半期決算発表後に開催)
- IR担当者と機関投資家、証券アナリストとの個別面談(年間約50件)
- 定時株主総会 株主総会終了後に株主説明会を開催

株主還元(配当方針)

当社は、財務健全性の維持・向上及び将来の投資に備えた自己資本の充実を図りながら、安定的かつ継続的な配当の実施を基本方針としたうえで、収益の状況を勘案した利益配分に努めています。なお、当社は定款に剰余金の配当等を取締役会決議によって行うことができる旨の規定を設けており、配当の実施については、中間配当及び期末配当の年2回としたうえで、期末配当は原則的に定時株主総会の決議事項としています。

2016年度の期末配当金は1株当たり6円(普通配当5円、創立70周年記念配当1円)とし、中間配当金を含めた年間配当金は1株当たり11円としています。

お客様とのつながり

信頼される品質への取り組み

お客様に安心してご利用いただける製品・サービスを継続的に提供するため、「営業」、「設計」、「購買」、「製造」、「品質保証」等の各部門が一体となって品質維持・向上に取り組んでいます。

不具合を未然に防ぐために、各工程での作業手順を定め、内部監査により実施状況を確認しています。

品質マネジメントシステム

国際規格の認証を通じて製品やサービスの品質向上に努めています。

事業部門	認証種類	登録年月
プラント部門	ISO9001	1996年1月
つくば工場	ISO9001 ISO14001	1996年3月 1998年5月
機能商品事業部	ISO9001	1997年4月
開発センター	ISO/IEC17025 ^{*1}	2012年12月
オルガノフードテック株式会社 本社工場	FSSC22000 ^{*2}	2015年3月

^{*1} 試験所、校正機関が試験・校正実施能力を実証するための要求事項をまとめた国際標準規格

^{*2} 食品関連製造事業者のための食品安全マネジメントシステム規格の一つ

お客様ニーズに合わせた製品・サービス

水処理には様々な浄化設備、薬品、機能性材料があり、その選定や運用には専門的な知識が要求されます。当社のホームページの「プロダクトサイト」ではお客様の用途、キーワードから簡単に検索することができます。また、純水・超純水サイトでは、水の純度と用途を専門家の立場から平易な文章で解説しています。



プロダクトサイト
<http://product.organo.co.jp/>



純水・超純水サイト
<http://purewater.organo.co.jp/>

◆ 社外からの主な評価・表彰(2016年度)

受賞製品名	表彰	主催
高速加圧浮上装置 「H-DAFシリーズ」 従来製品の約4倍の高流速処理を可能とした濁質除去装置	第43回優秀環境装置表彰 経済産業大臣賞 (環境保全技術の研究・開発及び優秀な環境装置の普及の促進を図ることを目的として創設された表彰制度で独創性、性能、経済性、将来性等の観点から審査を行い表彰)	一般社団法人 日本産業機械工業会 後援：経済産業省
省エネソリューション 「水熱利用システム」 地下水熱と冷水冷却排熱を利用する省エネシステム	平成28年度省エネ大賞 省エネルギーセンター会長賞 【製品・ビジネスモデル部門】 (事業者や事業場等において実施した他者の模範となる優れた省エネ取り組みや、省エネルギー性に優れた製品並びにビジネスモデルを表彰するもの)	一般財団法人 省エネルギーセンター、 後援：経済産業省
	平成28年度かながわ地球環境賞 【かながわスマートエネルギー計画部門】 (かながわスマートエネルギー計画の推進に寄与する再生可能エネルギーの導入等に関し、特に優れた取組を行ったもの又は今後寄与することが確実に期待できる取組を行ったもの)	神奈川県、かながわ地球環境保全推進会議

取引先・購入先とのかかわり

公正な評価およびパートナーシップの構築

当社の事業活動は多くの事業者の皆様を支えています。購買取引の際は、購買基本方針に基づいて取引条件を明らかにし、価格、品質、納期、その他の諸条件等を公平・合理的に評価し、購入先を決定します。また、購入先とは信頼関係を構築・維持することに努め、相互協力により共存共栄の関係を図るとともに法令遵守、環境、人権などの社会的責任への取り組みに関心をもち、お互いに社会的責任を果たせるよう努めます。

なお、購買基本方針は当社ホームページで公開しています。

<http://www.organo.co.jp/company/buying.html>

社会とのつながり

当社グループでは、水処理事業を通じて環境保全に貢献するとともに、水環境技術や教育に関わる支援活動に積極的に取り組んでいます。

水環境保全技術の発展に関わる支援活動

中国の若手研究者を支援する「オルガノ賞」

中国では近年、産業の発展に伴って環境に対する意識が高まるとともに、政府による水環境保全に関する政策が推進されています。

当社は2007年度より、中国科学院生態環境研究センター及び蘇州工業園区とともに、中国において水質・水環境保全に関する分野で優秀な研究成果を挙げている大学院生を表彰、支援する奨学金制度（通称：オルガノ賞）を行っています。

2016年度も中国に在住している大学院生を対象に研究テーマを募集し、7月に蘇州において優秀研究者の選考と表彰を行いました。



2016年度「オルガノ賞」表彰式(中国・蘇州)

水環境分野の若手研究者の研究を支援 ～(公社)日本水環境学会 博士研究奨励賞～

本賞は、博士後期課程の大学院生などの若手研究者による水環境分野の優れた研究成果を広く紹介し、更なる研究発展を支援する目的で設立されたものです。当社は本賞の主旨に賛同し、出捐という形で協力しています。

第10回を迎えた2016年度は、9月に秋田県立大学で開催された同学会シンポジウムにおいて研究発表、選考ならびに表彰式が行われ、3名が受賞されました。



2016年度「日本水環境学会」表彰式(秋田県立大学)

学校教育への支援活動

企業訪問学習への協力

当社では、各種学校教育をサポートしている特定非営利活動法人学校サポートセンターと連携し、毎年全国の中学校や高等学校の企業訪問学習の受け入れを行っています。

2016年度は高校生の訪問があり、実験や質疑応答などを交えながら当社の水処理や環境関連の事業について学習していただきました。

この訪問学習を通じて将来環境関連分野に進んでくださる若い人材が増えるきっかけとなるよう、今後も学校教育への支援を積極的に続けてまいります。



学習風景

地域イベント

つくば工場では、2016年8月に納涼祭を開催し、近隣地区の方々や取引先を含め約200名の参加がありました。地域サークルや社員によるステージパフォーマンス、花火打ち上げなど、イベントを通じて地域とのふれあいを深める活動を行っています。



つくば工場納涼祭

中国、インド、台湾、ASEANとのつながり

中国、インド、台湾、マレーシア、インドネシア、シンガポール、タイ、ベトナムの現地法人会社による事業を通じて水資源有効利用、水環境保全、水処理技術移転を推進するとともにサプライチェーンの拡大や現地雇用によって現地製造業の活性化に寄与しています。また、国内外の技術者が出席する社内の生産技術発表会で最新の技術情報を共有し、ともに発展していけるような取り組みを推進しています。



タイ展示会での技術説明

社員とのつながり

安全に働ける職場づくり

社員の安全と健康を確保するとともに快適な職場環境の形成促進のため、安全衛生管理規程に基づいて安全衛生管理体制と役割を定め、職場環境の維持管理、労働災害の防止・緊急時の措置および関連する教育訓練を実施しています。

メンタルヘルスケア

2016年度に全社員を対象にメンタルヘルス研修(eラーニング)を実施し、ストレスチェックを毎年実施しています。自分自身や同僚・部下の不調に気付いたときには社内の相談窓口で専門医や看護師のカウンセリングを受けることができます。

人材育成の推進

社員のスキルアップやキャリアアップのために、階層別研修や機能別研修を実施しています。また、社員の自己啓発を奨励する制度として、資格取得支援制度やオルガノ大学(通信教育受講金補助制度)を導入しています。

◆ 主な研修制度

研修種類	概要
入社時集合研修	約1ヶ月間の集合研修で社会人としての一般知識やオルガノの技術を学び、その後は建設現場や工場の研修で実務に必要な知識を習得します。
フォローアップ研修	入社1年目の11月に実施。各部署に配属された同期との相互啓発や仕事に対する疑問を共有し、オルガノへの理解を深めます。
Engineering Seminar Basic Course (ESB)	オルガノの基礎的技術について、技術分野ごとに受講。業務上直接関わらない技術についても、将来のキャリアに備え広範に習得します。
入社3年研修	仕事に関する目標や悩みを共有して会社から自分に与えられた役割を再認識し、考え方や行動の変革を促します。

◆ 資格取得支援制度

約300種類の公的資格を対象に取得費用の一部を補助します。人気の資格は、技術士、技術士補、公害防止管理者、衛生管理者、電気主任技術者、TOEIC、日商簿記検定などであり、技術系、語学系、情報処理系など多岐にわたります。

◆ オルガノ大学(通信教育受講金補助制度)

通信教育講座の「オルガノ大学」は業務に必要な技術系・営業系講座、階層別に求められるマネジメントスキルなど9分野144講座を取り揃え、一定の条件をクリアして修了すると受講料の一部を表彰金として受け取ることができます。

主なコミュニケーションツール一覧

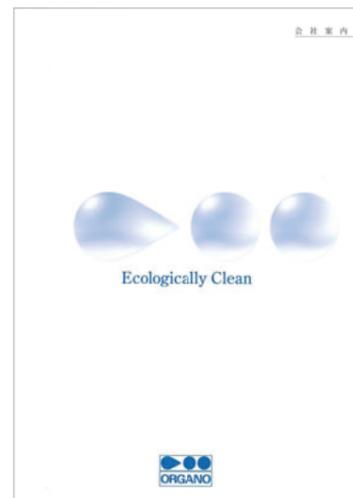
◆ ホームページ

ステークホルダーの皆様へ最新情報をお知らせしています。主な内容として企業情報、投資家向け情報(IR情報)、新着情報(ニュースリリース)、製品情報、採用情報などを掲載しています。



◆ 会社案内

事業内容、製品、サービス、国内・海外ネットワークを簡潔にまとめた冊子(日本語、英語)です。

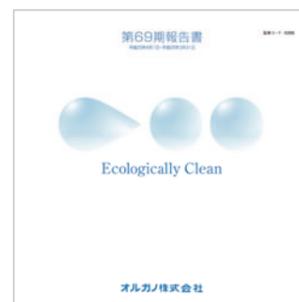


◆ 株主向け報告書

主に個人投資家向けに半期ごとに発行している冊子で、事業内容、経営方針、業績をわかりやすく紹介するとともに株式の手続きに関する案内を掲載しています。

PDFファイルをホームページで公開しています。

<https://www.organo.co.jp/ir/report/report.html>



環境基本方針／環境マネジメント体制／環境教育

環境基本方針

環境理念

オルガノは、地球環境の保全が人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、企業活動のあらゆる面で、美しい地球環境との共存と共生に貢献していく。

環境基本方針

◆ 継続的改善

企業活動が環境に与える影響を捉え、技術的・経済的に可能な範囲で、環境目的・目標を定めて、環境保全活動の継続的な改善を図る。

◆ 法令遵守・自主基準

環境関連の法律、規制、協定などを遵守し、さらに自主基準を制定して環境保全に取り組む。

◆ 製造環境

省資源、省エネルギー、リサイクル、廃棄物の削減に企業活動のすべての領域で取り組む。

◆ 製品環境

環境負荷低減型の商品づくり及び技術開発を行う。

◆ 環境監査

内部環境監査を実施し、環境保全活動の維持・向上に努める。

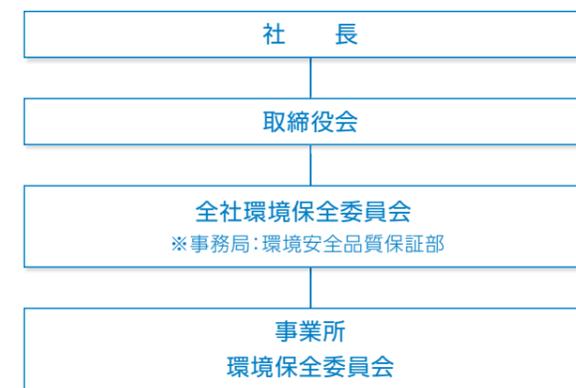
◆ 全員参加

環境教育、社内広報活動を実施し、全社員の環境基本方針の理解と環境に対する意識の向上を図る。

環境マネジメント体制

環境保全推進体制

オルガノの環境保全に関する方針、目標、施策は、「全社環境保全委員会」で審議、決定されます。国内各事業所では、会社の目標、施策を受け、さらに固有の課題も組み入れて環境保全委員会が事業所の方針、目標、施策を定め、活動を行っています。



環境マネジメントシステム

オルガノ(株)の環境マネジメントシステムは国際規格であるISO14001に基づいており、イオン交換樹脂の精製を行っているつくば工場にて認証を取得しています。

環境教育

社内教育の推進

新入社員教育やエンジニアリング技術教育のカリキュラムの一つとして、公害防止法令について講習を実施しているほか、国家資格である公害防止管理者資格の取得を推奨しており、通信教育や受験料の負担などのバックアップを行っています。



エンジニアリング技術講習風景

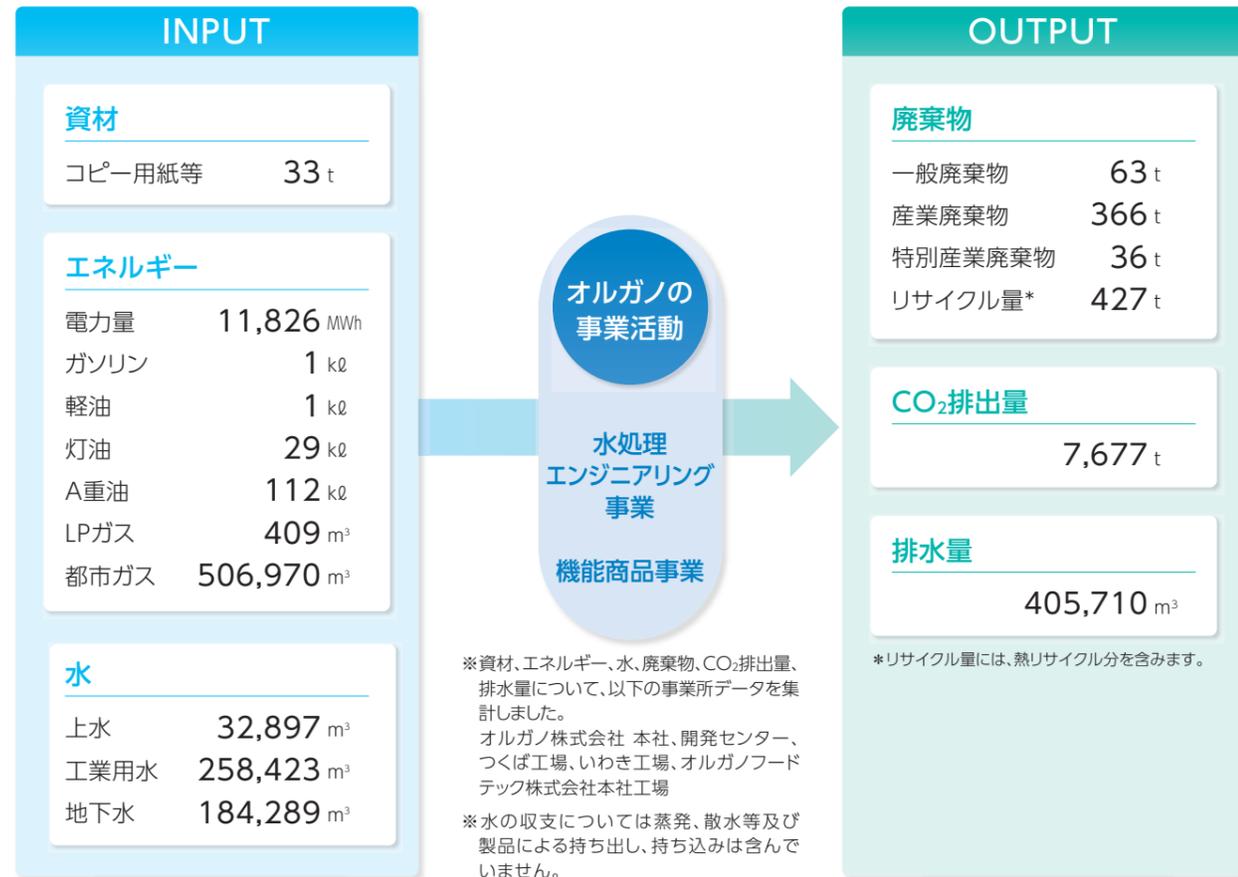
【2016年度公害防止管理者資格取得者数】*: 累計173名

*水質関係第1種~4種、大気関係第1種、騒音・振動関係、ダイオキシン類関係の合計

エネルギー・廃棄物

当社グループの事業活動に伴う環境負荷の主なものには、エネルギーの使用、廃棄物の排出などがあります。今後も環境負荷量の低減に努めてまいります。

◆ 2016年度オルガノグループの環境負荷量のインプット・アウトプット



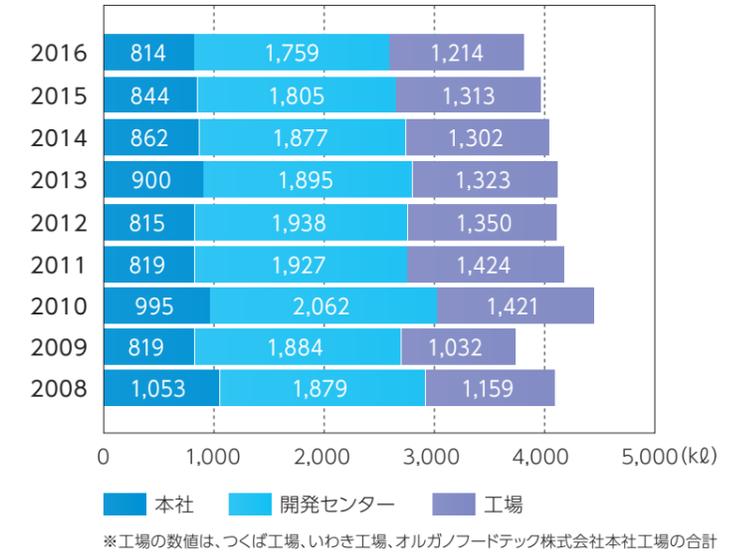
◆ エネルギー使用量(原油換算)

2008～2016年度の主要事業所のエネルギー使用量は右のとおりでした。

当社は「エネルギーの使用の合理化に関する法律」における特定事業者該当し、開発センターについては、第二種エネルギー管理指定工場等に該当します。

今後も全事業所において、省エネルギー活動に努めてまいります。

● エネルギー使用量



◆ 廃棄物排出量

2008～2016年度の主要事業所の廃棄物排出量は右のとおりでした。

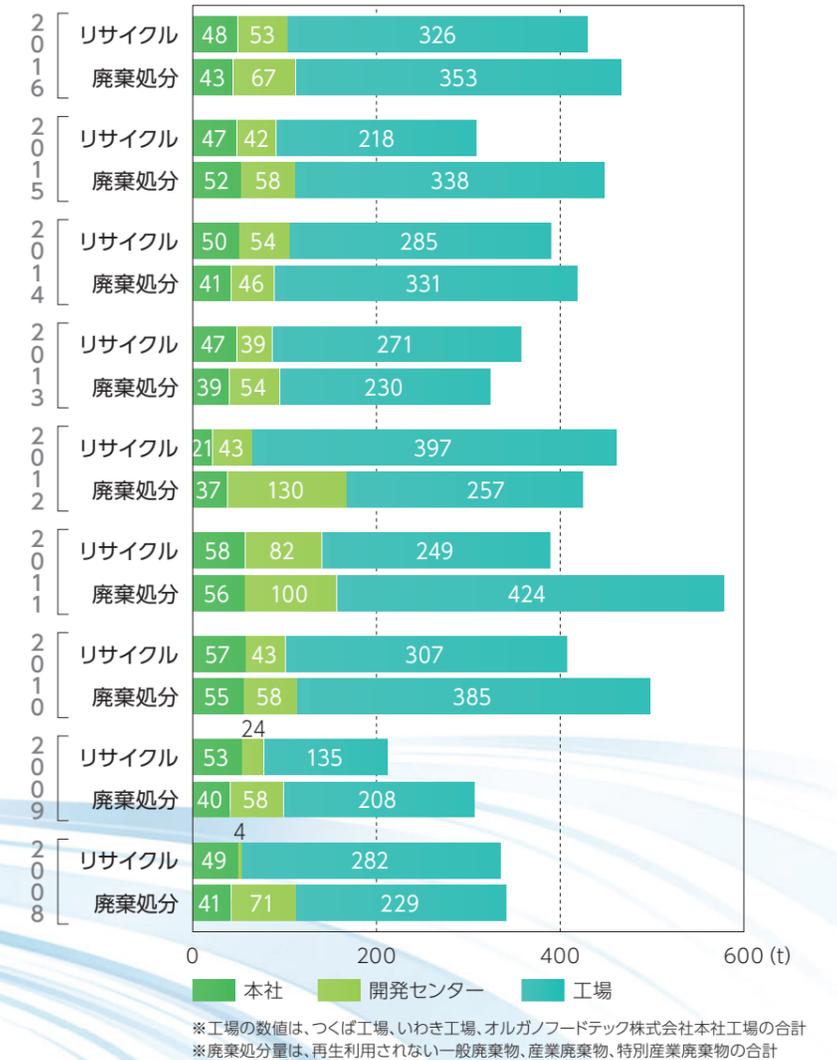
リサイクル率については、工場において前年よりも低下しましたが、比較的高い水準を維持しています。

今後もグループ各事業所において、一層の廃棄物排出量の抑制とリサイクル率の向上に継続して努めてまいります。



開発センター内の廃棄物分別

● 廃棄処分量とリサイクル量



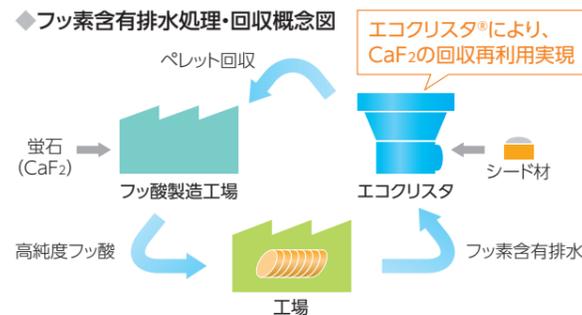
製品を通じた環境保全活動

当社は、大型水処理装置の製造販売やメンテナンス等を行う「水処理エンジニアリング事業」と標準型水処理機器や水処理薬品等の製造販売を行う「機能商品事業」を展開しており、環境に配慮したものづくりや技術開発を行っています。

排水処理を通じた環境負荷低減

排水中からのフッ素回収技術 ～晶析技術により廃棄物ゼロを実現～

半導体製造工場などで用いられたフッ酸（フッ化水素酸）は、これまで排水として排出された後、産業廃棄物として処分されてきました。当社のエコクリスタ[®]は、晶析技術を応用し、排水中のフッ素を純度95%以上のフッ化カルシウム（人工蛍石）として回収する技術です。回収したフッ化カルシウムは、フッ酸の原料としてリサイクルされ、工場の廃棄物削減と資源の有効利用に貢献しています。



攪拌式エコクリスタ[®]F-HC

TOPIC

当社と東芝セミコンダクター&ストレージ社四日市工場、旭硝子株式会社千葉工場の3社で実施している「フッ酸廃液からの人工蛍石の回収・リサイクル事業」が、(一社)産業環境管理協会主催の平成26年度資源循環技術・システム表彰において、経済産業大臣賞を受賞しました。

本事業では、東芝四日市工場で半導体のエッチング剤として使用されたフッ酸廃液から当社のエコクリスタ[®]により回収した高純度な人工蛍石を、旭硝子千葉工場が有価物として引き取り、フッ酸の原料としてリサイクルしています。

今回の受賞は、当事業が再生資源の有効利用の観点から高く評価されたことによるものです。

排水からの水回収技術 ～MBR方式を採用した標準型排水処理装置～

オーファス[®]OFAS-S1シリーズは、微生物処理と精密ろ過処理を融合したMBR(膜分離活性汚泥)方式を採用した標準型排水処理装置です。

生物処理と膜による固液分離を同時に行うことで良好な水質の処理水を安定して得ることができることから、処理水をそのまま水洗トイレ用水などに利用できるほか、純水の原水としても再利用することが可能です。工場や事業所において、水使用量削減による環境負荷低減に貢献します。



標準型排水処理装置 OFAS-S1-050型

用語解説

グラニュール: 微生物が自己造粒作用により形成した粒状の塊。沈降性が非常によいため、高濃度の微生物を保持することが可能。

純水: 濁質成分、塩分、有機物など不純物を除いた水で、分析用、飲料原料、洗浄用などに用いられる。一般的に電解質濃度の指標とされる電気伝導率1μS/cm以下を純水と呼ぶことが多い。

晶析: 溶液からその中に含まれている成分を結晶として析出させる操作。化学品の精製や造粒で用いられることが多い。

生物処理: 水中の有機物を微生物の浄化作用を利用して処理する方法。一般的に必要なエネルギーが少なく、環境にやさしい処理法とされる。溶存酸素が必要な好気処理と溶存酸素が不要な嫌気処理とに分けられる。

脱塩: 水中に含まれる無機塩(NaClなどの塩分)を除去すること。

ヒートポンプ: 空気や液体などから効率的に熱を集めることで、少ない投入エネルギーで大きな熱エネルギーを取り出し利用する技術。省エネ技術として注目されており、近年では給湯器やエアコン、冷蔵庫など身近な製品で活用されている。

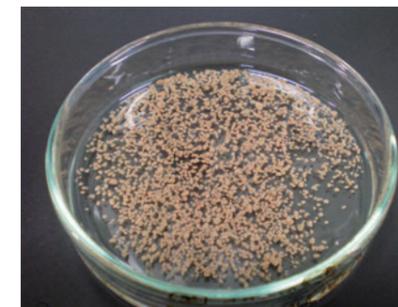
蛍石: フッ化カルシウム(CaF₂)を主成分とする天然鉱物で、フッ酸(フッ化水素酸)の原料等として用いられる。フッ酸廃液からリサイクルされるフッ化カルシウムは人工蛍石(あるいは回収蛍石等)と称する。

ろ過: 砂、繊維、膜などを用いて目的物をこし分ける方法の総称。水処理では濁質成分を除去する目的で多く用いられる。

グラニュール技術を利用した排水処理技術 ～ユニークな先端技術の開発～

工場排水や生活排水の適切な処理は、快適でかつ安全な環境を維持するために必要不可欠な技術です。当社は従来より下排水処理の技術開発に積極的に取り組んでおり、高度でユニークな技術を提供しています。

最近では高効率な生物処理を可能とするグラニュール技術を利用した、工場から排出される窒素含有排水の高速処理システムや、都市下水などの低濃度有機物含有排水処理技術を独自に開発しており、環境負荷低減に貢献しています。



好通気グラニュール

TOPIC

当社が開発した「グラニュールを用いた高速窒素排水処理システム」が、平成28年度(公社)日本水環境学会技術賞を受賞しました。本システムは、窒素含有排水の処理に際して微生物に特殊な条件を与えることにより、沈降速度に優れるグラニュールとすることで、反応槽内の微生物濃度を飛躍的に上昇させて、従来の3~5倍もの高速処理を可能としたものであるという特徴が評価され、本表彰に至ったものです。

環境に配慮した純水・超純水製造装置

節水型超純水製造装置

～水回収率の向上により原水使用量を削減～

オルトリア[®]UCシリーズは、前処理、一次純水製造、超純水製造の各工程をユニット化した最新の超純水製造装置です。RO膜の閉塞を防止する分散剤の自動添加システムを標準搭載することで、RO処理における水回収率を従来の55%から80%にまで向上させ、大幅な節水を実現しました。

また、当社独自の自動流量制御システムやインバータ搭載純水ポンプ等を採用することで無駄なエネルギーを削減するなど、省エネにも貢献します。



オルトリア[®]UC2600

電気再生式脱塩装置EDI

～薬品を使用しない純水製造技術～

電気再生式脱塩装置EDIは、薬品を使わず電気で水中のイオンを除去する装置で、酸やアルカリ排水が発生せず、環境にやさしい純水製造装置です。

当社は処理の効率化によって従来比最大30%の消費電力削減を実現するなど、独自の技術開発・改良を進めています。

キャビネット型からプラントまで各種純水・超純水製造装置に組み込まれ、電子産業の工場をはじめ様々な場面で活用されています。



EDI-XPシリーズ



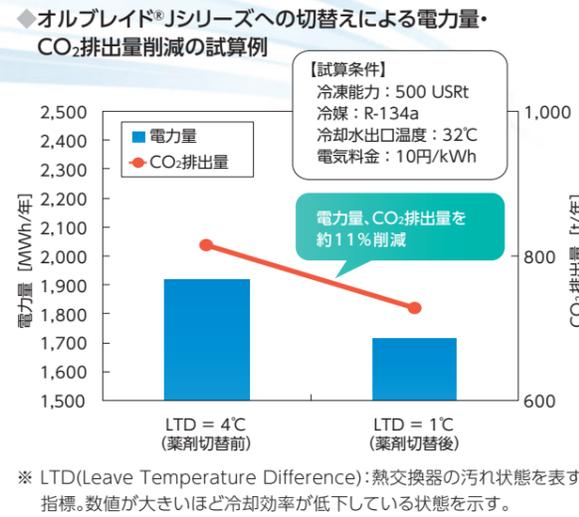
キャビネット型純水製造装置 スーパーデサリナー[®] SD-2000HF-000型

水処理薬品を利用した省エネへの貢献

冷却水処理剤オルブレイド®Jシリーズ ～高い殺菌・殺藻能力で省エネ運転を実現～

工場やビル等の開放系冷却塔では、連続運転の間に熱交換器に微生物や藻類由来の汚れ(スライム)が付着します。スライムは冷却効率の低下、さらには消費電力の増大につながることから、その発生防止と除去が求められています。

オルブレイド®Jシリーズは当社独自の製造技術で開発した次亜臭素酸塩系無機殺菌成分により強力な殺菌・殺藻効果を有し、スライムの付着による冷却効率の低下を防ぐことで冷却塔の省エネ運転に貢献する新しいスライムコントロール剤です。

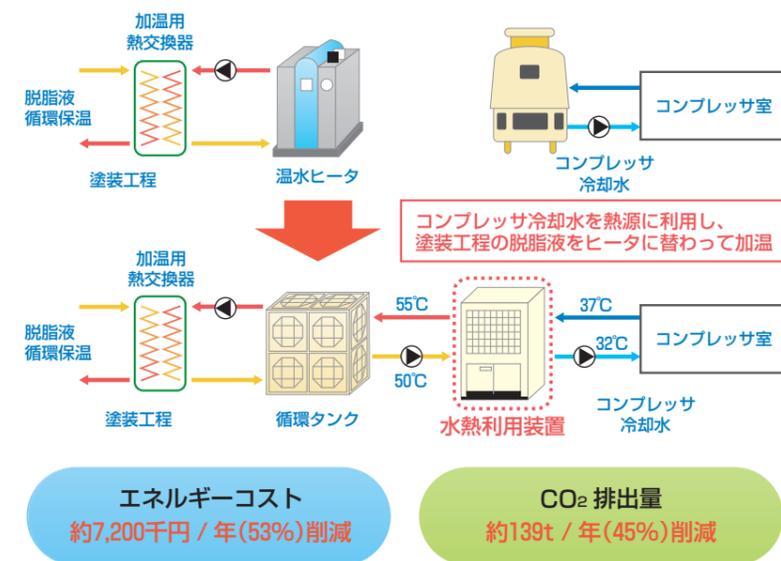


エネルギーの効率的な活用技術

水熱利用システム ～「水の熱」を高効率に回収利用～

工場や各種施設では、排水や冷却水、地下水などが持つ熱エネルギーが回収されず系外に捨てられていました。水熱利用システムは、ヒートポンプ技術を利用し、従来の熱交換器ではできなかった「低温側から高温側への熱移動」を可能にしました。これにより水が持つ熱エネルギーを高効率に回収することができます。さらに本システムでは、冷水の冷却排熱を回収利用して温水加熱を行うため、温水・冷水の同時供給が可能です。温水・冷水の供給にそれぞれ独立した熱源機が必要だった従来システムに比べ、エネルギー消費量とCO₂排出量の大幅な削減が実現できます。

◆導入試算例(機械部品工場)



事業所紹介

当社グループの主要な開発、製造拠点である開発センター、いわき工場、つくば工場及びオルガノフードテック本社工場では、以下のような環境保全活動を推進しています。

◆ 開発センター

開発センターでは、省資源や省薬品化など環境負荷低減につながる「水を創る」「水を浄化する」技術をはじめとする各種研究・開発を行っています。開発した技術・製品は水回収や資源回収、省エネなどお客様の工場棟での環境改善に貢献しています。また地下水や冷却環水の熱を回収し、敷地内で使用する温水を製造する「水熱回収システム」を導入し、エネルギーの有効活用を図っています。



◆ いわき工場

いわき工場では、各種水処理装置の製造・組立を行っています。廃棄物の削減、リサイクル及びエネルギーの削減に努め、あわせて購入資材の有効利用の促進を図っています。装置の製造では、3次元CADなどの設計ツールを用いて環境にやさしいユニット製品の開発・設計を行い、環境配慮型製品の納入によってお客様工場の環境負荷低減に貢献しています。



◆ つくば工場

つくば工場は水処理の基幹材であるイオン交換樹脂の精製などを行っており、資源の有効活用と省エネルギーを考慮した活動を通じて環境保護に努めています。特に、分別の徹底による廃棄物削減を推進するとともに、当社が得意とする技術を活かし、工場内での水のリサイクルに取り組んでいます。



◆ オルガノフードテック株式会社本社工場

埼玉県幸手市のオルガノフードテック(株)本社工場では、ハムや即席めんなどに欠かせない食品素材や食品添加物製剤を製造しています。食品加工に使用される製品の安全・安心はもとより、省資源、省エネ、廃棄物削減など環境保全、環境負荷低減に努めています。2015年11月には再生可能エネルギー発電設備の認定を受けた太陽光発電システムを導入しました。



会社概要

商号	オルガノ株式会社(英文 ORGANO CORPORATION)
創業	1946年5月1日
資本金	8,225,499,312円
代表者	代表取締役社長 鯉江 泰行
従業員数	連結2,100名(単体1,011名)(2017年3月31日現在)
事業内容	当社は総合水処理エンジニアリング会社として、イオン交換樹脂、分離膜、活性炭等を使用する各種排水処理装置の製造、販売、メンテナンス及び水処理アウトソーシング受託並びに各種薬品、食品加工剤の販売を主な事業としております。

主要事業所	本社 〒136-8631 東京都江東区新砂1丁目2番8号
	開発センター 〒252-0332 神奈川県相模原市南区西大沼4丁目4番1号
	つくば工場 〒300-2646 茨城県つくば市緑ヶ原2丁目3番(つくばテクノパーク豊里)
	いわき工場 〒970-1144 福島県いわき市好間工業団地1番66
	北海道支店 〒060-0907 北海道札幌市東区北7条東5丁目8番37号(北オルビル)
	東北支店 〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町1丁目11番1号(HF仙台本町ビルディング)
	関東支店 〒136-8631 東京都江東区新砂1丁目2番8号
	中部支店 〒464-0075 愛知県名古屋千種区内山3丁目7番3号(NTPプラザ千種内山)
	関西支店 〒564-0053 大阪府吹田市江の木町1番6号(関西オルガノビル)
	中国支店 〒732-0827 広島県広島市南区稲荷町2番14号(和光稲荷町ビル)
	九州支店 〒810-0012 福岡県福岡市中央区白金1丁目4番2号(オルガノ九州ビル)
	台湾支店 10F,No.158,Sec.2,Gongdao 5th Rd.,Hsinchu City 300,TAIWAN R.O.C.

主要グループ会社 (国内)	オルガノプラントサービス株式会社(水処理装置メンテナンス、維持管理) オルガノフードテック株式会社(食品加工剤製造、販売) オルガノエコテクノ株式会社(中小型排水処理装置製造、販売) オルガノアクティ株式会社(印刷、保険代理、管理業務受託) 株式会社ホステック(水処理装置製造) 東北電機鉄工株式会社(化学プラント工事)
------------------	---

主要グループ会社 (海外)	Organo(Asia)Sdn.Bhd.、Organo(Suzhou)Water Treatment Co.,Ltd.、 Organo Technology Co.,Ltd.、Organo(Thailand)Co.,Ltd.、 Organo(Singapore)Pte Ltd、Organo(Vietnam)Co.,Ltd.、PT Lautan Organo Water、 Murugappa Organo Water Solutions Private Limited
------------------	--

報告対象期間:2016年4月1日~2017年3月31日。ただし、一部の報告では複数年にわたる報告を行っております。

編集方針・報告範囲

- オルガノグループは、2015年度まで、環境報告書として、各種環境活動の報告を行ってまいりましたが、2016年度の活動報告よりCSR報告書としてまとめ、環境保全活動のみならず、企業の社会的責任を果たすための他の取り組みについてもまとめて報告いたしました。本報告書を通じて、当社グループの取り組みの一環をご理解いただければ幸いです。
- オルガノ株式会社(開発センター、つくば工場、いわき工場を含む国内事業所)が報告の主体ですが、一部、国内関連会社(オルガノプラントサービス株式会社、オルガノフードテック株式会社、オルガノエコテクノ株式会社、オルガノアクティ株式会社、株式会社ホステック、東北電機鉄工株式会社)を報告の範囲とします。
- 発行月
2017年9月(次回発行予定 2018年9月)
- 発行責任・問い合わせ先
オルガノ株式会社 経営企画部 CSRグループ
東京都江東区新砂1丁目2番8号



オルガノ株式会社

〒136-8631 東京都江東区新砂1-2-8
ホームページアドレス www.organo.co.jp/



CAT-NO.:G-8 2017
1TP17年09月印刷P15新SZRS